

第5章 学習指導要領の改訂等も見据えた調査項目の分析

1

カリキュラム・マネジメント

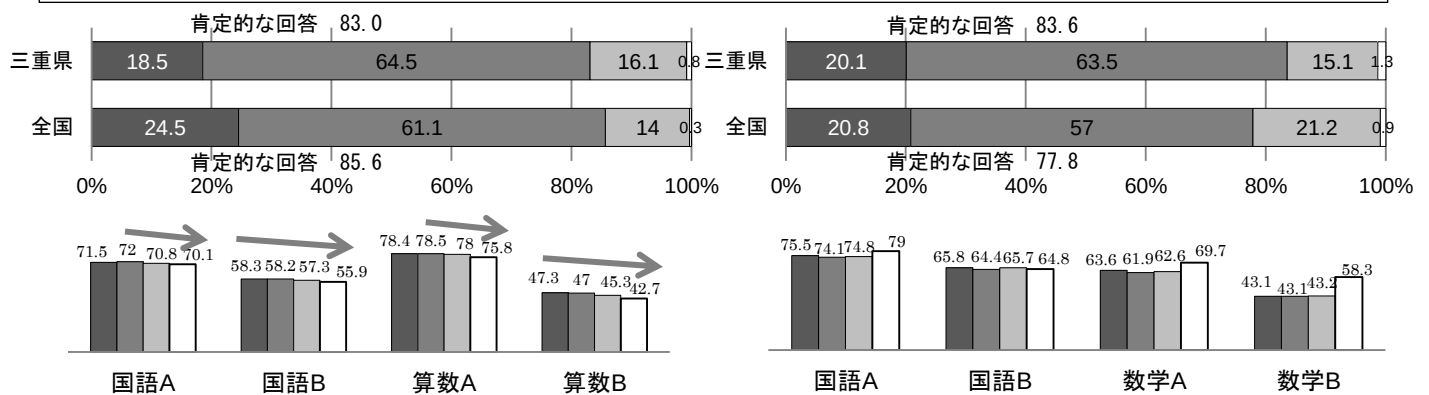
学習指導要領の改訂等も見据えて、指導計画の作成に当たっては、教育内容と教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせることが大切です。

小学校

中学校

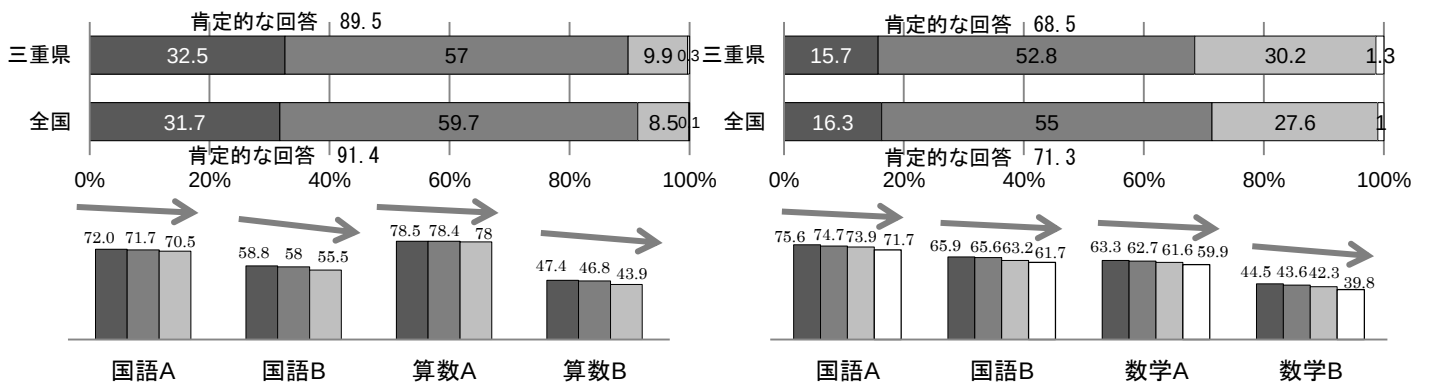
【学校質問紙】(31) 教育課程表（全体計画や年間指導計画等）について、各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成していますか

よくしている どちらかといえば、している あまりしていない 全くしていない



【学校質問紙】(34) 指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか

よくしている どちらかといえば、している あまりしていない 全くしていない



※質問紙と平均正答率の関連を表したグラフにおいて、各質問項目に対して最も否定的な回答（「全くしていない」）を選んだ学校数の割合が、0.5%台までの場合は、否定的な回答（「あまりしていない」と「全くしていない」）を合算して表示しています。

分析結果

教育課程表について、各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成していると肯定的な回答をしている学校は小中学校ともに8割を超えていますが、「よくしている」と回答している学校の割合は全国を下回っています。「指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせている」とした学校をみると、中学校の割合は7割弱であり、小中学校ともに全国平均を下回っています。

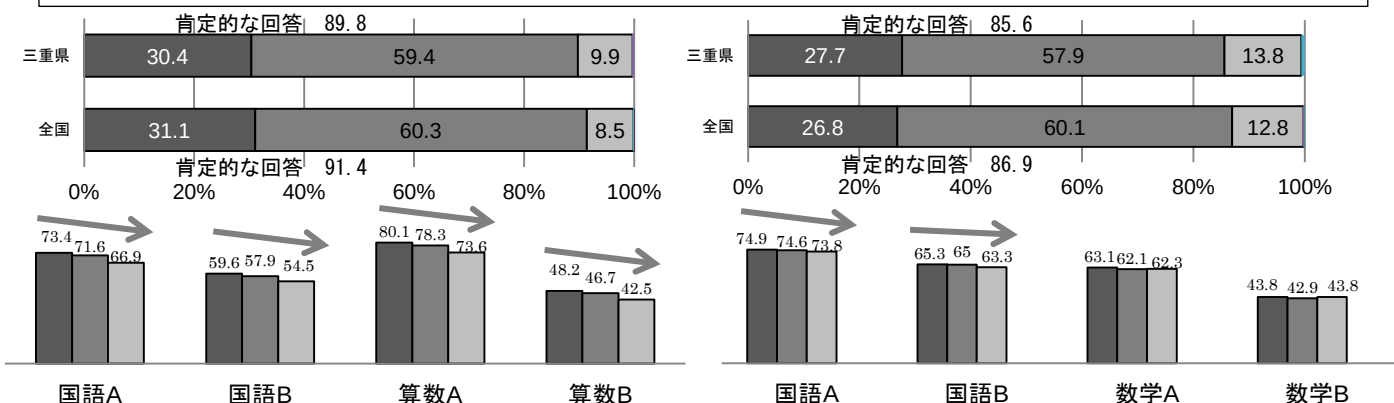
多面的な評価、形成的な評価については、肯定的な回答をした学校ほど、平均正答率も高い傾向が見られます。また、中学校では、指導と評価の在り方について改善が必要です。

小学校

中学校

【学校質問紙】(54) 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、国語や算数・数学において、論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作等の多様な活動に取り組ませることにより、ペーパーテストの結果に留まらない、多面的な評価を行いましたか

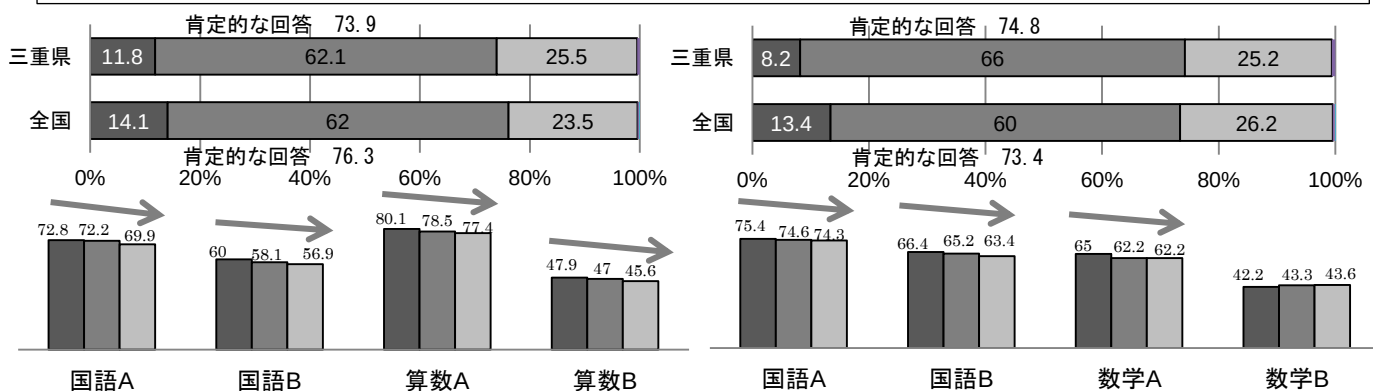
よく行った どちらかといえば、行った あまり行っていない 全く行っていない



※質問紙と平均正答率の関連を表したグラフにおいて、各質問項目に対して最も否定的な回答（「全く行っていない」）を選んだ学校数の割合が、0.5%台までの場合は、否定的な回答（「あまり行っていない」と「全く行っていない」）を合算して表示しています。

【学校質問紙】(55) 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、国語や算数・数学において一人一人の学びの特性に応じて、学習の過程における形成的な評価を行い、児童の資質・能力がどのように伸びているかを、児童・生徒自身が把握できるような評価を行いましたか

よく行った どちらかといえば、行った あまり行っていない 全く行っていない



※質問紙と平均正答率の関連を表したグラフにおいて、各質問項目に対して最も否定的な回答（「全く行っていない」）を選んだ学校数の割合が、0.5%台までの場合は、否定的な回答（「あまり行っていない」と「全く行っていない」）を合算して表示しています。

分析結果

多面的な評価については、小学校は9割程度、中学校は8割強が肯定的な回答をしています。小中学校ともに全国を下回っています。「あまり行っていない」等、否定的な回答をした割合が小学校は1割程度、中学校は1割強あります。

学習過程における形成的な評価は、小中学校ともに7割強が肯定的な回答をしています。「よくしている」と回答した学校の割合は全国を下回っています。中学校は「よくしている」と回答した学校の割合は全国より約5ポイント下回っています。

多面的な評価、形成的な評価については、小学校では、全国、三重県ともに全教科で肯定的な回答をした学校ほど、平均正答率も高い傾向が見られますが、中学校では、全国で関連が見られるものの、三重県では関連が見られません。中学校での指導と評価の在り方について改善が必要です。

1 主体的・対話的で深い学びの視点による学習指導の改善に向けた取組状況

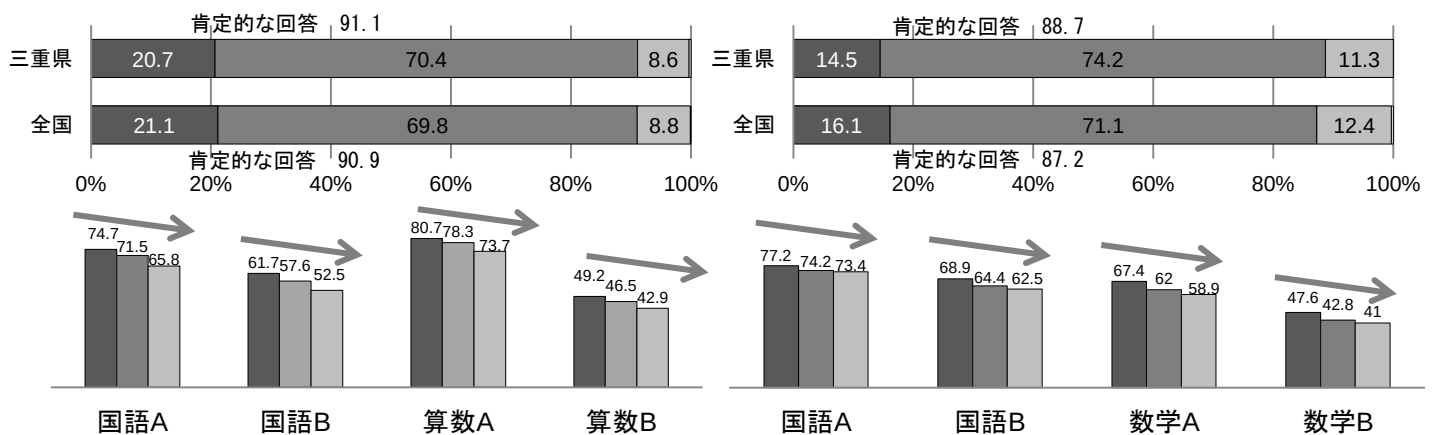
自ら考え、自分から取り組んでいたと回答した児童生徒の割合は、8割近くとなっています。今後、学習指導要領の改訂等も見据え、子どもたちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、主体的な学びの過程が実現できるようにするなどの視点で、学習指導を一層充実させていく必要があります。

小学校

中学校

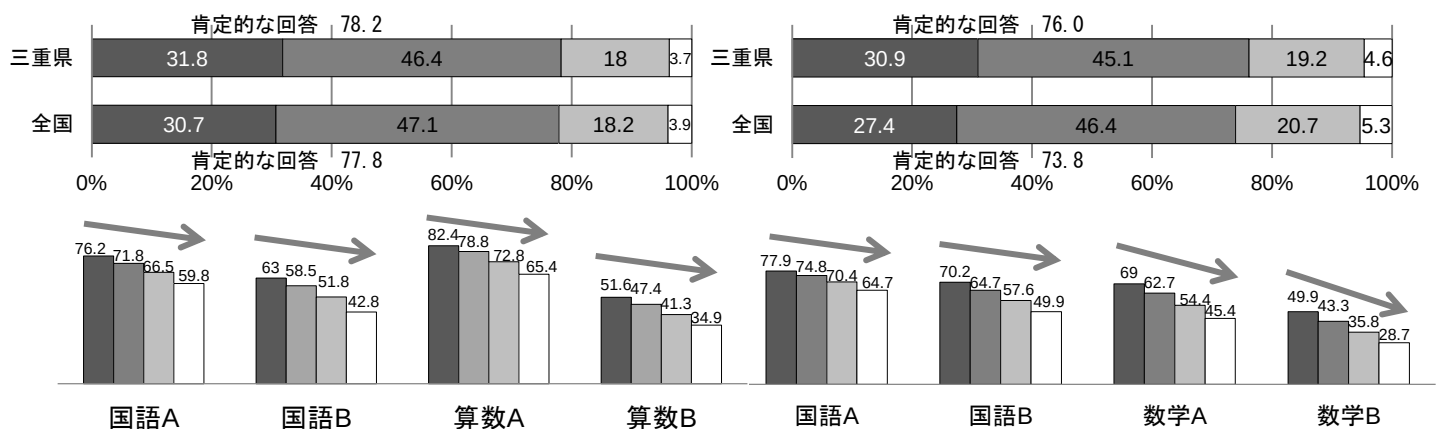
【学校質問紙】(20) 調査対象学年の児童生徒は、自ら設定する課題や教員から設定される課題を理解して授業に取り組むことができていると思いますか（新規項目）

■ そのとおりだと思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない □ そう思わない



【児童生徒質問紙】(47) 5年生まで（1、2年生のとき）に受けた授業では、先生から示される課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたと思いますか（新規項目）

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない □ 当てはまらない



学校と児童生徒の意識の相違【学校質問紙(20)】【児童生徒質問紙(47)】

		児童の回答別割合						生徒の回答別割合			
		当てはまる	どちらかといえば、 当てはまる	どちらかといえば、 当てはまらない	当てはまらない			当てはまる	どちらかといえば、 当てはまる	どちらかといえば、 当てはまらない	当てはまらない
学校の回答	そのとおりだと思う	36.0	44.8	15.4	2.4	学校の回答	そのとおりだと思う	32.7	44.6	18.6	3.7
	どちらかといえば、 そう思う	30.7	46.0	18.1	3.9		どちらかといえば、 そう思う	30.6	45.2	19.2	4.8
	どちらかといえば、 そう思わない ／そう思わない	27.1	46.1	20.2	5.1		どちらかといえば、 そう思わない ／そう思わない	30.4	44.4	20.0	5.0

分析結果

児童生徒質問紙、学校質問紙とも肯定的な回答を選択した児童生徒や学校ほど、平均正答率も高い傾向にあります。一方、学校の取組状況と児童生徒の回答状況を比較してみると、学校が肯定的な回答をしていますが、そう捉えていない児童生徒が一定の割合で存在します。

児童生徒が学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいく授業を取り入れていくことが大切です。

2 主体的・対話的で深い学びの視点による学習指導の改善に向けた取組状況

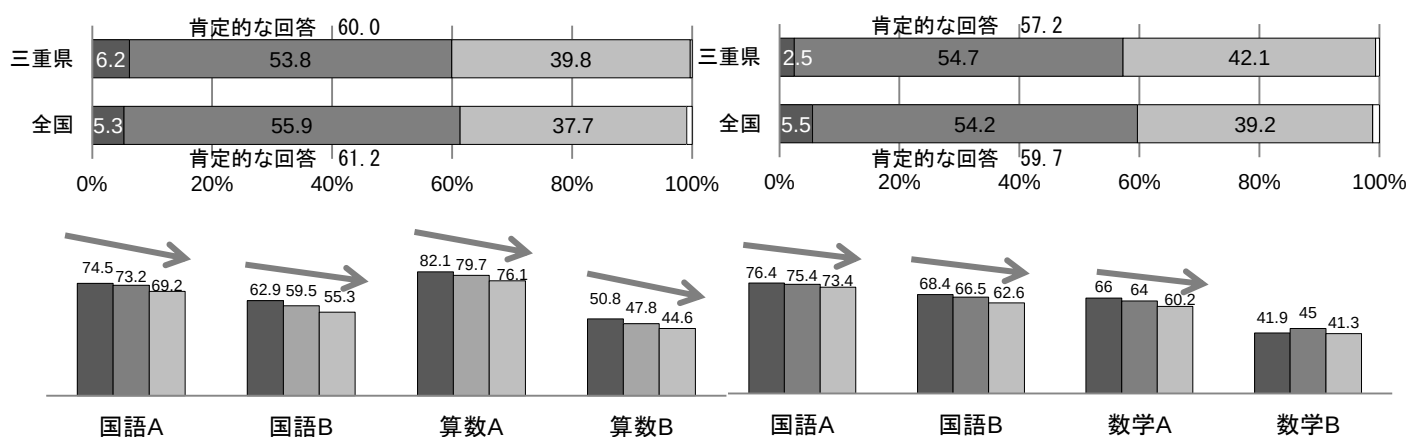
児童生徒が自分の考えを発表する場面の設定とともに、資料や文章、話の組立てなどを工夫するような、発表するまでのプロセスを大切にしたい授業づくりが重要です。

小学校

中学校

【学校質問紙】(21) 調査対象学年の児童生徒は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか（新規項目）

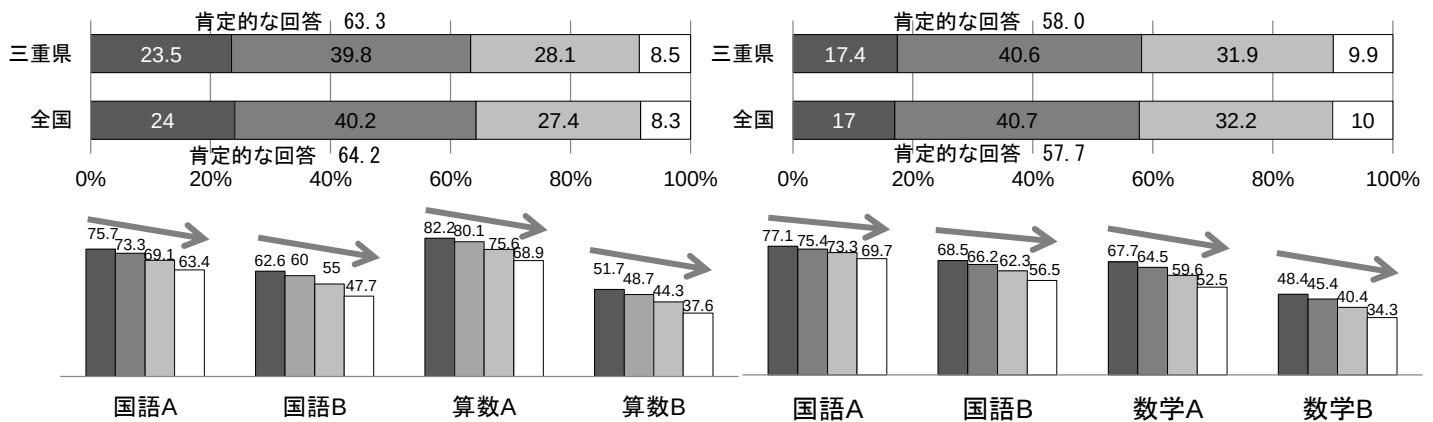
■ そのとおりだと思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない □ そう思わない



※質問紙と平均正答率の関連を表したグラフにおいて、各質問項目に対して最も否定的な回答（「そう思わない」）を選んだ学校数の割合が、0.5%台までの場合は、否定的な回答（「どちらかといえば、そう思う」と「そう思わない」）を合算して表示しています。

【児童生徒質問紙】(52) 5年生まで(1、2年生のとき)に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか(新規項目)

当てはまる
 どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない



学校と児童生徒の意識の相違【学校質問紙(21)】【児童生徒質問紙(47)】

		児童の回答別割合			
		当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない
学校の回答	そのとおりだと思う	27.9	43.7	22.1	5.6
	どちらかといえば、そう思う	23.9	39.2	27.9	7.4
	どちらかといえば、そう思わない／そう思わない	21.8	38.7	28.4	10.0

		生徒の回答別割合			
		当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない
学校の回答	そのとおりだと思う	21.0	41.8	29.6	7.3
	どちらかといえば、そう思う	17.3	41.0	31.4	9.9
	どちらかといえば、そう思わない／そう思わない	17.1	39.8	32.7	10.2

分析結果

授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと回答した児童生徒は6割程度に留まり、そのような取組ができていないという児童生徒は4割程度存在します。

児童生徒質問紙では、肯定的な回答をした児童生徒ほど、平均正答率も高い傾向にあります。また、学校質問紙については、数学Bを除く全ての教科で同様の傾向が見られます。

学校と児童生徒の回答状況から、学校が「児童生徒は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思う」と回答をしても、そう捉えていない児童生徒が一定の割合で存在します。

児童生徒が自分の考えを発表する場面の設定とともに、資料や文章、話の組立てなどを工夫するような、発表までのプロセスを大切にしたい授業づくりが重要です。

3 主体的・対話的で深い学びの視点による学習指導の改善に向けた取組状況

授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動は、小中学校ともに割合が増加し、取組が進んでいますが、基本的になお全国平均を下回っています。

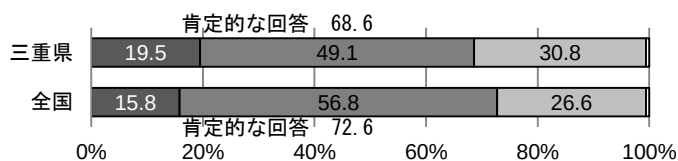
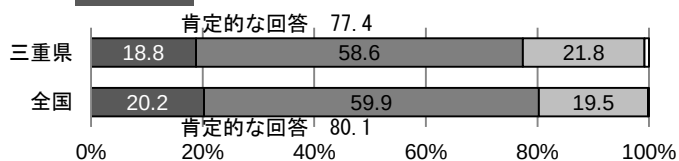
小学校

中学校

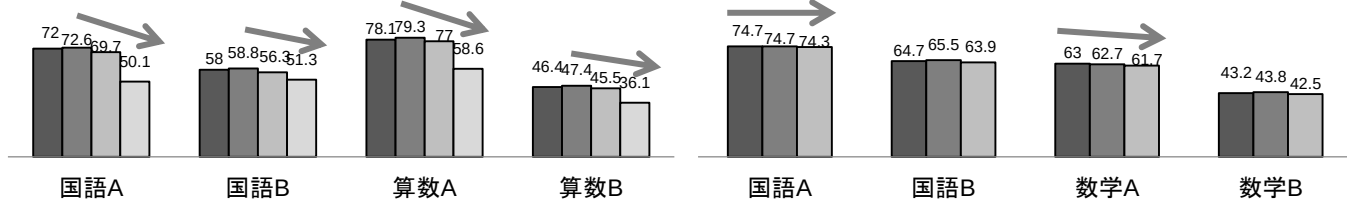
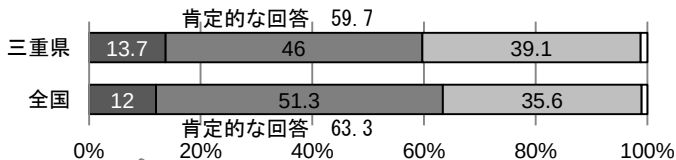
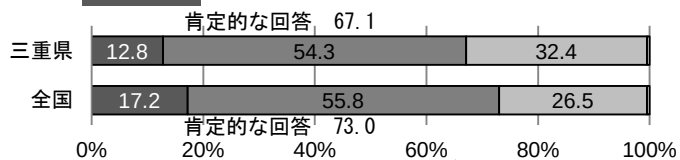
【学校質問紙】(44) 前年度までに、授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか

よく行った どちらかといえば、行った あまり行っていない 全く行っていない

H28



H27

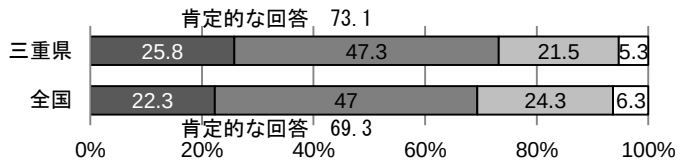
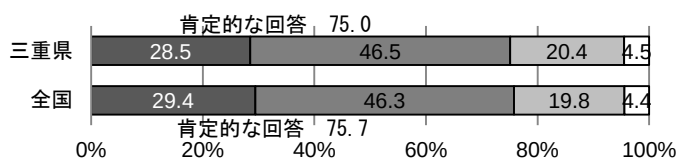


※質問紙と平均正答率の関連を表したグラフにおいて、各質問項目に対して最も否定的な回答（「全く行っていない」）を選んだ学校数の割合が、0.5%台までの場合は、否定的な回答（「あまり行っていない」と「全く行っていない」）を合算して表示しています。

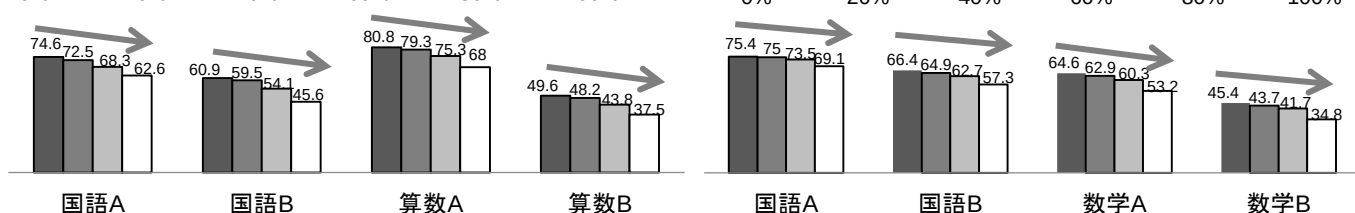
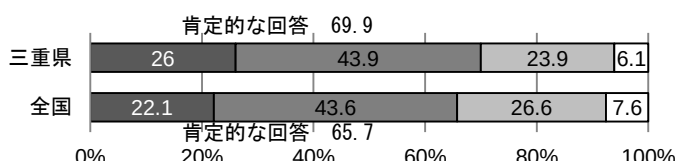
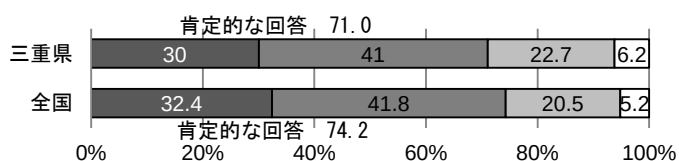
【児童生徒質問紙】(50) 前年度までに受けた授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思いますか

当てはまる どちらかといえば、当てはまる どちらかといえば、当てはまらない 当てはまらない

H28



H27



学校と児童生徒の意識の相違【学校質問紙(44)】【児童生徒質問紙(50)】

		児童の回答割合						生徒の回答割合			
		当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない			当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない
学校の回答	よく行った	30.8	45.7	18.5	3.2	学校の回答	よく行った	26.9	48.4	19.8	4.5
	どちらかといえば、行った	27.7	46.3	20.2	4.7		どちらかといえば、行った	26.6	47.1	20.9	5.0
	あまり行っていない／全く行っていない	27.1	45.0	21.4	5.1		あまり行っていない／全く行っていない	23.5	46.7	23.3	6.2

分析結果

授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動は、小中学校ともに割合が増加し、取組が進んでいますが、基本的になお全国平均を下回っています。

子ども同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」の視点に立った学習指導も重要です。

今後も引き続き、学習指導要領の改訂等も見据え、子どもたちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、主体的な学びの過程が実現できるようにするなどの視点で、学習指導を一層充実させていく必要があります。